

1月の 園だより



「ゆきのひ」

25年新潟青陵幼稚園 加藤由美子

新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い致します。年末年始、どのようにお過ごしでしたでしょうか。きつとご家族ご親戚の皆様と心温まる日々を過ごされたことと思います。

さて、過日、保護者の方から次のようなお手紙をいただきました。

「青陵幼稚園のお子さんはなぜ人の目（大人の目）を意識しないで自身の遊びに没頭できるのでしょうか、身体（魂？）が膜で守られているようにも感じます。大人の方がどのようにかわっていらっしゃるのですか？」

ご質問の方は、感性がとても豊かな方ですね。“幼児期の遊び=重要な学び”である事をよく知っていらして、子どもたちが遊びに没頭している事の大切さを感じていらっしゃるのだらうと思います。

では、なぜ子どもたちは、自分の遊びに没頭できるのでしょうか。

第一に、私たちは大人の顔色を見て行動を決めるような子どもになってほしくないの、大人がいつも柔らかで静かな温かい雰囲気、子どもに添い、子どもがどのような状態であっても受け入れる姿勢を持って子どもたちを受け入れる姿勢を持つようにしています。（実際できないこともあって・・・反省ばかりですが・・・）

保育者の心が常に安定していなければ、・・・つまり、いつ“保育者山が噴火”するかと思ひながら生活していたのでは、言いたいこともいえず、やりたいこともできず（自発性は発達しません）心は安定しませんね。安心して遊んでいいよ、大丈夫、片付けになったら、歌を歌うからね。それまで、安心して遊んでいいよ、という雰囲気を作っています。これが保育者が子どもを守るために作っている環境であって、このご質問の方が言われる「子どもを守る膜（覆い）」となります。

第二に、遊びを自分で選ぶという事が大きな要因です。自分がやりたい遊びですから、楽しいですし、面白いはず。面白い事には集中もし、没頭もできる、だから工夫もするし、発見もある、友だちと多少ぶつかり合いがあっても、そのトラブルを乗り越える柔軟な心を、“遊びの面白さ”が作りだしてくれるのです。

第三は、評価をしない遊びの世界を作っているからです。遊びの定義の一つに「遊びの目的は遊びそのもの」ということがあります。ですから結果は問わないのです。出来栄を気にしないでいいわけで、だから楽しいのですね。評価されたら、結果が気になって、十分に遊びこめなくなります。遊びは“遊びの過程”が重要なのです。で

すから、とっても素敵なロボットも、高く作った山も、その子の心の中で遊びが終わった状態になると、簡単に崩してしまう姿もよく見られます。この、評価を気にしない遊びは、この世的なものを超越した芸術家が味わえるような素晴らしい世界だとのことです。ですから、幼児期は本当に素晴らしい世界なのです。

幼児期に没頭して遊ぶ経験は学びであり、且つ、原体験として後々まで残っていくのですから、重要なものなのです。

25年1月の予定

日	曜	給食	降園時間	行事
8	火	×	11:30	第3学期始業式です。
9	水	×	12:00	お餅つきの会です。バス時間が30分遅くなります。よろしくお願い致します
10	木	○	2:00	
11	金	○	2:00	
12	土	/	/	第2土曜日
13	日	/	/	
14	月	/	/	成人の日
15	火	○	2:00	
16	水	×	11:30	誕生会です。1月生まれさんの保護者の方と一緒に祝いましょう。
17	木	○	2:00	
18	金	○	2:00	
19	土	/	/	大学入試のためお休みです。
20	日	/	/	
21	月	○	2:00	
22	火	○	2:00	
23	水	×	11:30	個人懇談を行います。午前保育です。
24	木	○	2:00	個人懇談を行います。
25	金	○	2:00	個人懇談を行います。
26	土	/	/	第4土曜日
27	日	/	/	
28	月	○	2:00	
29	火	○	2:00	
30	水	○	2:00	
31	木	○	2:00	